東邦

東邦学園広報

キャンパス

東邦学園の建学の精神は「真に信頼して事を任せうる人格の育成」であり、校訓として「真面目」を掲げています。

真面目

特集：東邦高校に新しいエネルギー生んだ男女共学
共学１期生卒業から30年

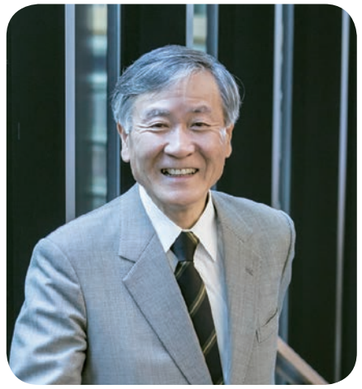
第70回愛知県高校野球選手権大会で15回目の優勝を果たし東海大会でも準優勝に輝いた東邦高校硬式野球部。春の甲子園切符が待たれます。

第39回皇后杯大会に愛知東邦大学女子サッカー部が創部11年目で初出場。２回戦でちふれ（なでしこ１部）に惜敗しましたが新たな歴史を刻みました。インカレにも４年連続５回目出場。ベスト８をめざし2018年のさらなる躍進に期待しましょう。

発行　学校法人 東邦学園
〒465-8515　名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地
TEL 052（782）1241　FAX 052（781）0931
ＨＰ 検索 東邦学園 検索 愛知東邦大学 検索 東邦高等学校

vol.128
平成30年（2018年）1月15日

年頭所感



良識を持った発信者に

学園理事長・愛知東邦大学学長　榊　直樹

ニュースが世界を昼夜なく行き交い、ＳＮＳがコミュニケーション手段という情報化時代、建学の精神「真に信頼される」姿勢の大切さをお話しします。

「エイプリルフール」は、毎年４月１日なら嘘をついても許されると言われます。500年前に始まったという説（これも嘘？）があります。罪のない、笑い転げる「冗談」だったら、１年に一回くらいは構わないという風習です。

「絶対に紙切れしない25段給紙トレイ付きプリンター登場」「初の犬猫専用車『ワンクル』と『ニャンク』開発」……。誰も信じないけれど面白い嘘。でも、日本の新聞社がかつて「スマトラ沖地震の余波で沖縄南端に新島が出現」と発信したら、韓国の新聞社がまともなニュースとして掲載したそうです。

昨年は「冗談」が一挙に減ったのです。米大統領選挙に絡んで、全くのでっち上げの話が真実らしいニュースとして世界に流され、選挙動向が左右されたこと、一方でトランプ大統領がまともな報道で窮地に立つと「フェイクニュースだ」と逃げ口上をうち続けたからです。何が事実で、何が真実でないか見分けられなくなったら、「狼少年」の世界が現実化してしまいます。

ネット上の情報はいきなり信じない、拡散させ、まして自ら嘘の振りまき役には絶対ならない――。互いに安心して暮らせる社会の基盤として、建学の精神に裏打ちされた良識をかみ締めましょう。

改　革

東邦高等学校校長　佐々木　泰裕

新年あけましておめでとうございます。

本校教職員は力を合わせて、社会で活躍する人材を輩出する教育機関としての役割を安定的に果たし、「信頼され選ばれる学校」となることを目指して日々努力しております。

近年、2020年教育改革、高大接続改革（高等学校教育改革、大学入学者選抜改革、大学教育改革）や、働き方改革、人づくり改革など「改革」という文字をたくさん目にするようになりました。改革とは社会の変動や危機に対応し，あるいは適合するように改善や改良を重ねいくことです。明治から大正時代にかけて活躍した政治家の大隈重信は、「停滞は死滅である」と語っています。あれこれ考えるだけでなく、行動に移すことの大切さを感じます。

社会はAIやIoTなど目覚ましい技術革新やグローバル化の進展、少子化など急激な変化がもたらされています。教育機関であっても、改革が必要な情勢だと考えます。思い起こせば、教務・教頭時代においても情勢に合わせた新しい取り組みを導入したり、改革に取り組んだりしてきました。本年も95年を迎える歴史を大事にしながらも慣例に流されることなく、将来を見据えた教育活動に挑戦していきたいと考えております。

東邦高校に新しいエネルギー生んだ男女共学
共学1期生卒業から30年

激論を重ね校史に残る決断 心配吹き飛ばした女生徒パワー

共学スタート時の校長　久野秀正さんに聞く

東邦高校が愛知県内の私立男子高校のトップを切って男女共学をスタートさせたのは1985（昭和60）年４月でした。2018年３月で共学１期生を送り出して30年になります。公立高校では一般化していた男女共学ですが、男子校として出発した多くの私立高校にとって、共学化は歴史を変える大事件でした。先陣を切った東邦高校は、職員会議での激論を何度も重ねたうえでの決断でした。スタート時の校長だった久野秀正さんに振り返っていただきました。（法人広報企画課・中村康生）

志願者の落ち込みが契機に

――東邦、中京、愛知、名電など名古屋の私立男子校の先陣を切って、東邦高校が男女共学に踏み切った大きな要因は何だったのでしょう。

東邦高校は1971（昭和46）年に東区赤萩町から現在の名東区平和が丘（当時は千種区猪高町）に移転しました。東邦商業学校として開校以来の赤萩校舎ですが生徒数の増加に加えて、名古屋市の都市計画による校地接収もあって校舎は手狭となり、移転を余儀なくされたためです。

赤萩校舎は地下鉄東山線千種駅から、「雨でも傘いらず」と言われたほどの近さで、ＪＲ、地下鉄とのアクセスの良さもあり、名古屋市近郊からの通学も便利でした。しかし、平和が丘の新校舎は、一社駅も開業したばかりで通学路は雨が降るとどろんこ道。愛知淑徳学園も千種高校もすでにありましたが、新たに移転してきた東邦高校では志願者数の落ち込みが続きました。

さらにこの当時、４年制大学への進学志向が高まり、系列大学を持っている高校の人気が高まりました。東邦学園短期大学（愛知東邦大学の前身）も1965（昭和40）年には開校していましたが、４年制大学を系列に持つ高校の人気には太刀打ちできず、東邦高校では危機感が高まりました。将来計画委員会を作るなどして検討を重ねる中で浮上したのが男女共学構想でした。

バンビ坂本人気も後押し

――公立では当然の共学ですが、別学は私立のカラーでもあったわけですね。

そうです。男女共学構想を後押した要因には、新制高校の男女共学で育った母親たちの増加があったと思います。東邦高校の入学式会場を訪れた母親たちは、真っ黒の制服で埋め尽くされる男子生徒ばかりの光景が異様に映ったのでしょう。男女共学を求める声が親たちからも上がり始めたのです。

久し振りに東邦高校を訪れた久野さん

さらに、1977（昭和52）年の夏の甲子園大会でバンビ坂本投手の活躍で東邦高校が準優勝した“バンビ人気”も共学化を推し進める要因になりました。「女子は入学できないのか」「東邦高校に入れてほしい」といった女子中学生たちの問い合わせや要望が相次いだのです。こうした動きに、教員たちの間では、「女子中学生や親たちの共学化志向は予想以上に高い」「男女共学が生徒募集の切り札になるのでは」という声が高まって行きました。

建学の精神と男女共学

――職員会議での議論では、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という建学の精神も論議されたのでしょうか。建学の精神は男子生徒を念頭に置いたものだったと思います。

もちろん議論になりました。しかし、世の中は女性

がどんどん社会に進出する時代になっていました。教員たちの意見も、「男子に限定する必要はなく、女子も含めて教育することこそ、本来の建学の精神に合うのではないか」という結論にまとまっていきました。こうした検討が積み重ねられて理事会も1982（昭和57）年、「共学化」を決断しました。共学スタート準備は慎重に進められ1985（昭和60）年度から実施されました。私が校長就任２年目の年でした。

どれだけ生徒が集まってくれるか、本当に疑心暗鬼でした。何しろ、男子校が女子生徒を迎えいれる共学化は愛知県の私立高校ではどこも経験のないことでしたから。ところがふたを開けてみたら予想外にどっと女子生徒が押し寄せたのです。みんな驚きました。

共学１期生となった1988年卒業生アルバム

制服決定では中学校でアンケートも

――入学してきた男女共学１期生を迎えた入学式ではどんなあいさつをされましたか。

「466名の男子、422名の女子の皆さん、入学おめでとう。全校あげて心から歓迎します。特に記念すべき共学１期生たらんと本校の門をたたいた女子生徒と、それを支えられた保護者の方々の勇気に敬意を表します」。入学式のあいさつではそう切り出しました。

男女共学スタートに向けていろんな準備に追われました。制服のブレザー化の傾向は出かかってはいましたが愛知県内の私学ではまだまだで、男子は黒い制服、女子はセーラー服が一般的でした。ブレザーの制服は東邦が最初となりました。スクールカラーのグリーンにも近いグリニッシュブルーをベースにした制服で、基本的には現在と同じです。最終的に決定するまで、地元の中学校に頼んで展示してもらい、アンケートを取りましたが、これも共学の宣伝になりました。

男女共学が生んだエネルギー

――男女共学は部活動を始め学校生活にはどんな影響を与えたのでしょう。

最初の年の入学者は男子がわずかに多かったですが、２年目からは男女の比率が逆転し、志願者数の増加と学力向上という効果を生みました。入学してくる女子のパワー、意気込みがすごく、学校の雰囲気が大きく変わっていきました。

共学化に合わせてソフトボール、茶華道、家庭科、バトントワリングなどの部が新設されるとともに水泳、バスケットボール、バレーボール、空手、柔道、アーチェリーなど運動系クラブにも女子が入部し、一緒に練習するようなりました。1987（昭和62）年高校総体200m平泳ぎでは津村典子が優勝するなど女子躍進ののろしを上げました。

女子部員を迎えた水泳部（1988年卒業アルバム）

女子パワーに引っ張られるように硬式野球部は1988（昭和63）年春の甲子園で準優勝、1989（平成元）年春には４回目の甲子園優勝に輝きました。さらに1991年、1992年と連続で夏の甲子園にも出場を果たしました。

期待と不安の中でスタートした男女共学でしたが、女子生徒たちが真面目で、予想以上のパワーがあるのには驚きました。そして、女の子には男の子にはない実直な面があり、コツコツやるタイプの子もたくさん入ってきてくれました。東邦高校は男子校時代から大きな変化を遂げていきました。

男子校時代の最後となった1987年卒業生アルバム

愛知県の私立男子高校ではでは東邦高校が共学化のパイオニアになりました。本来、世の中は男女で成り立つわけですから、男女で学ぶのは自然の姿なのです。しかし、東邦高校が他校に先駆けての男女共学を決断した時は、まさにルビコン川を渡る思いでした。

久野秀正（くのひでまさ）さん

名古屋市出身。愛知県立明和高校の第１回卒業生で、名古屋大学法学部の新制になった最初の入学生。1955（昭和30）年、東邦高校が東区赤萩町にあった当時、社会科教員として奉職。生活指導部長、教務部長、校長補佐を経て1984（昭和59）年４月から1991（平成３）年３月まで第９代校長。

育まれた新しい“東邦愛”

磯部　由美子さん

（家庭科専任教員第１号で空手部初の女性顧問）

小学校、中学校と共学で育ってきた生徒たちにとって男女共学は何の違和感もなく受け入れられたと思います。それでも、それまで男子校だった学校を選んで入ってきてくれた女生徒たちは意欲的な子が多く、「さあ行こう」という感じでした。生徒会役員に女子が加わり、女子生徒会長が誕生するまであまり時間を要しませんでした。男女の仲もよく、新しい“東邦愛”が育まれていったように感じました。

部活動の指導で私には最初は茶道、華道部への打診がありましたが「座っているのは向きません」と言ったら空手部の顧問になっていました。女子部員も増えていたので女性顧問も必要となったのでしょう。早速、北海道のインターハイに同行するなど、おかげであちらこちらに行かせていただきました。

（株式会社イープロ代表取締役）

女子部員を迎えた空手部。左は女性初の顧問の磯部さん（1988年卒業アルバム）

全国大会常連に育ったバトン部

森田　美樹教諭

（女性専任教員第１号でバトン部初代顧問）

男女共学がスタートする１年前、英語教員として採用されました。校則で髪型やソックスの長さをどうするかなども議論になり意見を求められました。男性の先生方の緊張が高まり、特に男子校時代の経験が長い年輩の先生の中には、女子生徒をどの程度叱っていいのか、泣かれたらどうしたらいいのかと心配する先生もいました。

私立女子校も多い中、あえて共学初年度の東邦高校を選んだ生徒たちは、パイオニア精神にあふれ、学力的にも高い生徒が多かったと思います。私は男女共学１年目から、商業科６クラスのうちの１クラスの担任を３年間務めましたが、意志の強い活発な女子生徒が多かったと思います。共学１年目の２、３年生は男子生徒ばかり。女子生徒に興味津々の様子で教室をのぞきに来る生徒たちもいました。

バトン部の初代顧問もしましたが、地道な努力を積み重ねて今や全国大会の常連。うれしく思っています。

（進路指導主事）

女子生徒の入学で発足したバトン部。右は顧問の森田教諭（1988年卒業アルバム）

女子サッカー部がなでしこ１部ちふれと大接戦
創部11年　新たな歴史開く皇后杯大会初出場

日本サッカー協会（JFA）旗、ちふれ旗とともに掲げられた
2014年度卒のOGたちが贈った「元気全開　Bestpeformance」の応援旗（右）

佐久総合運動公園で声援を送 る東邦応援団

ちふれのシュート21本の猛攻をしのぐ

愛知東邦大学女子サッカー部が皇后杯大会（第39回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会）に初出場、創部11年目で愛知東邦大学の歴史に新たな１ページを開きました。全国から48チームが参加した大会に東海地区代表（５チーム）として出場した愛知東邦大は１回戦で神村学園高等部（九州地区代表）にPK戦で勝ち、皇后杯大会初勝利。２回戦ではなでしこ１部リーグちふれASエルフェン埼玉と対戦。後半89分に１点を奪われ惜しくも０－１で敗れましたが、弱者が強者を倒す“ジャイアントキリング”の期待も膨らむ大健闘が光りました。

雨中の120分戦　歴史的な皇后杯１勝

▽１回戦（10月29日、四日市中央緑地公園）
愛知東邦大学２－２神村学園高等部（０－０、２－２）
PK戦　愛知東邦４－３神村学園

台風22号の接近に伴う強い雨もたたきつける中、試合は午前11時にキックオフ。愛知東邦大は後半開始早々に岩田あかり（４年MF）からのパスを水野亜美（１年MF）が押し込み１点。さらに副キャプテン竹林祐真（４年FW）が鮮やかに２点目。しかし皇后杯大会出場11回目の神村学園は愛知東邦大のオウンゴールでの１点に続き２点目のゴールを決めて同点に。雨足が一段と強まる中、30分の延長戦に持ち込まれましたが決着がつかずPK戦に。愛知東邦大は延長戦後半からGK早川このみ（２年）に代わって身長169cmの川上日菜乃（３年）を投入。雨中のPK戦を４－３で制しました。

神村学園高等部を制し皇后杯大会初勝利を飾る

89分で痛恨の決勝点ゴール

▽２回戦（11月４日、佐久総合運動公園陸上競技場）
ちふれ１－０愛知東邦（０－０、１－０）

なでしこ１部チーム相手に愛知東邦大はGK川上日菜乃を中心にチーム一丸でちふれの猛攻をしのぎ続けました。後半終了間際まで電光掲示版スコアは０－０のまま。しかし89分、なでしこの意地を見せたゴールを決められ惜しくも０－１で敗れました。ちふれの21本のシュートに対し愛知東邦大のシュートはキャプテン中村陽の１本だけ。攻撃の要となる竹林佑真、岩田あかりへのパスはちふれに阻まれ続けました。

試合終了後、大勝志津穂監督は激闘を終えた選手たちの健闘を称え、「悔しい結果に終わったが、この悔しさを次のステップに生かそう」と励まし、選手たちに下を向かせませんでした。応援スタンドでは大学を午前６時すぎにバスで出発した選手の父母たちや駆けつけた教職員たちが熱い応援を送り続けました。

48チームが参加した日本女子サッカー最高峰大会

皇后杯全日本女子サッカー選手権大会は、1979年に創設された全日本女子サッカー選手権大会が、女子サッカーの最高峰の大会としての権威をさらに高めるため2012年の第34大会から、「皇后杯全日本女子サッカー選手権大会」と改称しました。

「皇后杯」の冠を掲げて６回目となった第31回大会には全国９地域の代表28チームに、なでしこ１部、２部各10チームを加えた48チームが参加。愛知東邦大の２試合を含め、各ゲームフルマッチ映像は日本サッカー協会（JFA）のウェブサイトから配信されました。

インカレにも４年連続５回目出場決める

愛知東邦大学女子サッカー部は2017年第26回全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）東海地区予選（第６回東海女子学生サッカーリーグ戦）を６勝１引き分け（勝ち点19）で終え、静岡産業大学とともに本戦出場を決めました。愛知東邦大のインカレ出場は４年連続５回目となりました。

東海地区予選には８校が参加。愛知東邦大は11月19日に全勝（６勝）同士での最終戦となった静岡産業大戦を引き分け、PK戦を２－４で落としたため初の東海地区第１代表は惜しくも逃しました。

愛知東邦大が静岡産業大に得点を許さないままPK戦に持ち込んだのは初めてで、皇后杯大会出場の勢いを見せつけた試合となりました。米澤好騎コーチは「これまで大差ではねつけられていた静産大を相手に、堂々と互角に戦い、勝利までもう一押しだった」と選手たちの健闘をたたえました。

第１代表を目指した静岡産業大との首位決戦

大学行事・クラブ活動

「本気祭～俺たち傾奇者～」のテーマに思いを込めた第53回和丘祭

大学祭実行委員　半田　若菜（人間健康学部人間健康学科２年）

11月11、12日に第53回愛知東邦大学和丘祭を開催しました。

今年のテーマは「本気祭（まじまつり）～俺たち傾奇者（かぶきもの）～」でした。このテーマに込めた想いは「物事は本気でやるから面白い。中途半端にはやりたくない！だからこそ愛知東邦大学生が本気で和丘祭を創り上げる。食べ物はとことん美味しく。企画はとことん面白く。装飾はとことんハイクオリティ！それを実現するためには学生会だけじゃなく大学全体、そして周りの協力を募る。そして来てもらった子どもから大人まで全ての人が本気で遊べる。そんな場所を作っていく!!」というものでした。

このテーマに沿った今年初の試みとして、「うまかもんグランプリ」を行いました。この企画は、各団体の模擬店に対して“味”“見た目”“接客”の３項目について来場者が投票し、№1の模擬店を決定しようというものです。

各模擬店が、№1を目指して本気で競い合う状況が感じられ、これまでにないクオリティの高い模擬店の出店となりました。今年初の企画だったため、反省点も多く見つかりましたが、それらの点を改善すればより良いものになるという思いも持つことができ、来年に向けてすでに構想が出てきています。

また、今年は装飾イメージを歌舞伎としました。入場門からステージ、各模擬店に至るまで、全ての装飾に歌舞伎を思わせるデザインを採用し、全体の統一感を演出しました。大学祭全体の雰囲気は、昨年よりも来場者数が増加したこともありますが、装飾イメージの統一により華やかさを増すこともでき、活気あふれる大学祭となりました。

私たち実行委員は、本気で取り組んだことで良い大学祭を創ることができたと思います。「本気でやってよかった」と思うことができたので、これからも何事にも本気で取り組み、常に前進しながら、在学生や教職員、卒業生、さらに地域の方々と共に盛り上がり、楽しめる大学祭を創り上げていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

年間行事　（2017年度）

1　後期講義終了、後期末試験

2　後期末試験
就職合宿、海外研修（サンカルロス大学）
卒業研究発表会
総合野外活動実習Ⅲ（スノー）

3　卒業証書授与式、学内企業展
春期休暇（２／５～３／31）、入学前セミナー

「東邦プロジェクトD・Ⅲ」で消費者金融業界の課題にチャレンジ

経営学部地域ビジネス学科准教授　手嶋　慎介

夏、三井住友フィナンシャルグループの「SMBCコンシューマーファイナンス株式会社名古屋お客様サービスプラザ」を訪問し、イベントスペースにてプロジェクト最終授業を行いました。同社から提示された消費者金融業界に関する複数の課題に対し、テレビCMなどの同社のブランド戦略、社会問題化する奨学金、消費者問題などを取り上げ、CSR（企業の社会的責任活動）としての学生支援の必要性を同社社員の方々にプレゼンしました。

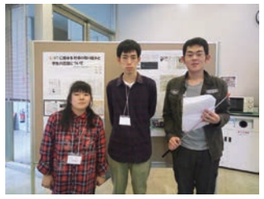
具体的に、本学の学生たちが自主運営する学生寮「TOHO Leaning House」のような施設を設立し、学生の学びとライフマネーを支援する、業界ならではの付加価値ある施設運営を提案しました。

次年度は「東邦プロジェクト」に加え、「専門プロジェクト（地域ビジネス学科）」が新たに始まります。今後、地域や企業からの実際の課題に挑戦する取り組みは、さらに充実していきます。

プロジェクト型学習で得た多くの出会いと経験

経営学部国際ビジネス学科助教　長坂　康代

前期の全学共通科目「東邦プロジェクトD」は、多文化共生の実践をテーマに、学生14人がLGBT（性的少数者）について理解を深めてきました。NPO訪問による学びを行い、LGBT啓発パレードにも参加しました。



また、10月の「ワールド・コラボ・フェスタ2017」でのブース出展では、LGBTについて説明をしたりアンケートを実施したりして、100人超の方々と世代を超えて交流する貴重な機会を得ました。

10月21日に愛知大学豊橋キャンパスで開催された第11回「社会調査インターカレッジ発表会」では、経営学部地域ビジネス学科３年生３人が半期の学びを基軸にした発表をおこないました。準備期間が短く十分な内容とはいえませんでしたが、他大学の学生との学際的な関わりもよい刺激になりました。

学内外で多くの方々にご協力いただき感謝します。学生たちにはこの経験を生かしてたくましく前に進んでほしいと思っています。

マダガスカルの少年サッカーチームに届いた「TOHO」ユニフォーム

「心のこもったユニフォームありがとうございます」――。愛知東邦大学女子サッカー部にお礼の手紙が届きました。手紙には「AICHI　TOHO」のロゴ入りのユニフォームを着た笑顔のイレブンの写真データも添えられていました。

女子サッカー部は2016年にユニフォームを新調。創部以来のユニフォームをホーム用（緑）とアウェイ用（えんじ）の新デザインユニフォームに一新しました。2017年になって、不要となった旧デザインのユニフォームを、JICA（独立行政法人国際協力機構）が実施している「世界の笑顔のために」プログラムを通じて途上国で役立ててもらおうと、大学側の了解を得て提供しました。

「TOHO」のユニフォームを着たマダガスカルの少年チーム

「世界の笑顔のために」プログラムは、開発途上国で必要とされている、スポーツ、日本文化、教育、福祉などの関連物品を提供してもらい、世界各地で活動中のJICAボランティアを通じて現地の人々へ届けようというプログラムです。手紙によると、「TOHO」ユニフォームが提供されたのは、マダガスカルの「MA-STAR」という少年サッカークラブチーム。写真には黄色のGKユニフォームも含めた11人がさっそく練習に励んでいる様子も収められていました。

このユニフォームは男子サッカー部も使用していたものと同じデザイン。2010年に２部リーグに昇格した当時の男子サッカー部の記念写真のユニフォームと同じでした。

文科大臣認定「職業実践力育成プログラム／中小企業のための若手社員活性化プログラム」が２年目を迎えました

経営学部国際ビジネス学科長　田村　豊

文科大臣の認定を受けて2016年から開講している「中小企業のための若手社員活性化プログラム」は２年目を迎えました。今年度は昨年度の経験を生かし、いっそう充実した内容のプログラムを９人の社会人が夕方６時45分から約１年間、学んでいます。

プログラムの内容は「私の経営哲学」「デジタル時代のマーケッティング・プランニング入門」「伝える企画書、伝わるプレゼンテーション」「日本企業の強さはどこから生まれるか」「企業のブランド価値を確実にアップさせるブランディングの最新ノウハウ」など実務にも役立つ内容です。今年度から「ビジネスシーンで使う英語の基礎と考え方を学ぶ」も加わりました。受講生の方々は忙しい毎日を送っており、会社の業務を切り詰めて毎回の授業に参加しています。

大学はこれからよりいっそう選別と選択の時代に入ります。地域社会が大きな変化を示している今こそ、大学としての学びをどのように提案していくのか、本プログラムは新しい学びを提案するために多くの課題と期待を担っていると感じています。これからも皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

2018年春季リーグで1部昇格の「歴史」を創りたい

硬式野球部マネージャー　宮腰　陵人（人間健康学部人間健康学科２年生）

愛知大学野球秋季リーグ戦２部Ｂリーグを８勝２敗で優勝することができ、2016年同様２部リーグ優勝決定戦に進出することができました。優勝決定戦の相手はＡリーグの名古屋商科大学でした。結果は０勝２敗で、残念ながら１部リーグ入替戦まで進むことはできませんでした。全力で戦ったのですが前年の壁を越える事ができず悔しい結果に終わりました。

2018年こそ硬式野球部の歴史を越える春季２リーグ優勝、１部リーグ昇格を必ず勝ち取りたいと思います。秋季リーグ戦が終わってすぐに新チームに入れ替わりました。新チームのスローガンは昨シーズン同様「歴史を創る」です。

春季リーグ戦こそは必ず１部昇格という目標に向かって、古谷主将のもと、１日１日の練習を大切に行っていきます。３月には沖縄キャンプに行きます。沖縄まで行くからにはチームや個々が少しでもレベルアップできるように一生懸命練習してきます。

春季リーグ戦での１部昇格、また１部で優勝し明治神宮大会に出場できるように全員の意識や技術の向上のために謙虚な姿勢で野球に取り組みたいと思います。

たくさんの人に応援されていることをチーム力に変えて、春季リーグ戦では何としても１部リーグに上がるために全力で頑張ります。今後とも硬式野球部への温かいご支援、ご声援をよろしくお願いします。

男子サッカー部　2017年度活動報告

男子サッカー部監督　伊藤　数馬

平素より男子サッカー部の活動にご支援いただきありがとうございます。「東海学生サッカーリーグ１部昇格」を目標に挑んだ2017年度でしたが、第４位という結果に終わり、目標を達成することができませんでした。今年度については、リーグ終盤まで昇格争いをしていただけに例年以上に悔しさが募ります。この悔しさを来年度の喜びに変えられるようチーム全員で引き続き精進していきたいと思います。

また今年度は学内外で多くの方々に声をかけていただきました。「試合勝っていたね」とか「最近調子いいね」、「負けていたみたいだけどチームの調子はどう？」などなど。自分達の活動が多くの方々に支えられていることを実感すると共に、とても嬉しく思っています。

まだまだあらゆる面で未熟なチームではありますが、少しずつですが「変化」を感じられる場面が増えてきました。これからも女子サッカー部と、お互いを高め合い、刺激し合いながら活動していきたいと思っています。変わらぬご支援の程宜しくお願い致します。

高大連携スペシャル

吹奏楽団監督　白谷　峰人

2017年度、強く意識して取り組んできた活動が「高大連携演奏」です。

普段は練習場所も練習時間も違う大学・高校のマーチングバンドが、土日や祝日の練習時間を合わせ、様々なことにチャレンジしてきました。

以下は今年度12月までの連携活動です。大学・高校が全員で取り組んだものもあればグループでの取り組みもあります。（A＝全員、G＝グループ）

４月　大学入学式（A）
５月　名東区民まつり（A）、セントレアスカイマーチングフェスティバル（A）
６月　有松絞り祭（A・G）、インディビジュアルコンテスト（G）
７月　平和が丘夏祭り（A・G）
８月　売木村ミニコンサート（G）、広小路まつりパレード（A）、納涼音楽祭（A）
９月　マーチング大会（G）、メニコンカップハーフタイムショー（A）、グランパス東邦デー（A）
10月　マーチング大会（G）、お菓子フェアマーチングフェスティバル（A）
12月　あいち航空ミュージアムクリスマスコンサート（A）

名古屋グランパス「TOHO観戦DAY」で

この他にも大学・高校それぞれ単独でのイベント出演や演奏活動があります。その中でこのように多くのイベントに高大のマーチングバンドが連携して出演することで高校生が大学生に技術的なことや人として学ぶこと、大学生が高校生に刺激され初心を思い出させてくれることなど、お互いにプラスになることがたくさんありました。そして多くの皆様からお声がけいただくことで、少しでも地域の音楽文化の発展に貢献することができているのではないかと思います。

これからもこの連携活動を可能な限り続け、大学・高校ともに成長していきたいと思います。

いつも応援ありがとうございます。感謝の気持ちを忘れず日々精進していきます。

高校／行事・クラブ活動

一丸となって創りあげた2017年度学園祭

生徒会正顧問　古田　知子

体育祭が９月20日、秋晴れの下で開催されました。団対抗リレー、学年対抗リレーなどの競技種目、台風の目や綱引きなどの団体種目やレク種目では、生徒たちが全力で競技し、大いに力を競い合いました。また、東邦伝統の１年生全員による花笠踊りや、学年を超えてひとつになった応援合戦には大きな声援が送られました。

９月22日、23日に開催された文化祭は、父母・地域の皆さん、中学生をはじめ4147人という多くの皆さんにご来場いただきました。「LIKEでLIFE～新しい笑顔に出会う～」をテーマとして掲げ、実行委員会・各クラス・クラブは、夏休みから準備・練習を重ね、仲間とひとつのものを創り上げる喜びを実感することができました。

今年は、木製の自転車・トロッコ等大型の「モノづくり」、廃材で絶滅危惧種の動物をつくりあげた展示企画、沖縄修学旅行と繋がるエイサーなど、創意あふれる企画が多く、熱気あふれる文化祭となりました。

また、東邦伝統の「東邦きしめん」をはじめPTAや同窓会企画なども大盛況でした。

２日目の交流の広場で行われた学園祭本部企画は、「将来の自分に向けて～あなたの未来予想図は何ですか？～」と題して、劇団「少年社中」主宰者・演出家であり、東邦高校卒業生の毛利亘宏さんをお招きし、“社会と関わる生き方とは”、“将来に向けて高校時代をどう過ごすか”等、シンポジウム形式で語り合いました。

模擬店やバザーの売り上げは、名古屋市動物愛護センター、九州豪雨への義援金、熊本地震で被災した文化財の修復支援、東日本大震災遺児への就学支援、愛知私学奨学支援資金財団、戦争と平和の資料館ピースあいちなどへの寄付にあてられます。また、沖縄のひめゆり平和祈念資料館へは、２年生の修学旅行団が募金を届けています。

年間行事　（2017年度）

1　マラソン大会

2　推薦入学試験、一般入学試験
修学旅行（人間健康コース）
予餞会、卒業式

3　学年末考査、終業式

西洋美術の神髄に触れる旅
～美術科イタリア修学旅行～

教頭　藤本　紀子

11月９日から14日までの６日間、美術科41人がイタリア修学旅行に行ってきました。フランス修学旅行として予定されていた美術科の修学旅行ですが、2015年のテロ事件によりフランスでの実施が難しくなり、2016年は沖縄・八重山諸島での実施、今年度はヨーロッパ情勢を鑑みイタリアへ行き先を変更しての研修旅行となりました。

ローマ、フィレンツエ、ベネチアの３都市を巡る旅、ローマではヴァチカン美術館、フィレンツエではウ

フィツィ美術館、ベネチアでは２年に一度開催されるビエンナーレを観ることができました。一般の観光旅行と違い、美術・芸術に触れる事を最優先にした旅行です。

システィーナ礼拝堂「最後の審判」の荘厳さに圧倒され、街のいたるところに芸術作品が佇むフィレンツエの街並みを歩き、ミケランジェロ、ラファエロ、ダビンチ、ボッティチェリなどの作品を、その筆づかいが分かるほど間近で観ることができました。

食い入るように見つめる生徒の眼差しが印象に残っています。まさに西洋美術の神髄に触れる旅、この経験は今後の制作、人生に大きな影響を与えるであろう旅行になったと確信しています。

フィレンツエ　ミケランジェロ広場にて

沖縄修学旅行を終えて

修学旅行第２団団長　今井　通昭

２年普通科（人間健康コースを除く）では、沖縄を３泊４日で巡る修学旅行を実施しています。本年度も例年通り３団編成で11月８日から13日にかけて、沖縄の旅を楽しんできました。

本校修学旅行の柱のひとつである平和学習。初日にひめゆり平和祈念資料館を訪れ、総合学習で学んだ机上の物語を、今こうして現実を目の当たりにする。厳粛な気持ちで映像を食い入るように見つめる生徒達の真剣な眼差し。平和の大切さが着実に生徒達の心に刻み込まれました。

今回は一部行程を見直し、全体的にゆとりを持たせたものになっています。そのせいもあって、生徒達に大きな体調不良はなく、どのクラスも級長を中心にしてきびきびとした集団行動が出来ていたように思います。その成長を以後の高校生活に生かし、残された学校生活を実りあるものにしてほしいと期待します。

首里城守礼門にて

「日本一強い東邦」を目指して

硬式野球部コーチ　山田　祐輔

いつも東邦高校硬式野球部をご支援・ご声援いただき、ありがとうございます。私達は､「全国制覇」を目指し、日々練習に励んでおります。

2017 年秋季大会では、神宮大会出場をかけての東海大会に臨みました。しかし、力及ばず、決勝で負けてしまい、準優勝となりました。非常に悔しい結果となりましたが、チーム・個人の課題が把握でき、冬の過ごし方が見えてきました。

東海大会でも堂々の準優勝

更なるチーム力アップを目標に、厳しい冬練習となりますが、チーム内で厳しい声を掛け合い、精神面・体力面・技術面を鍛え直し、全国で勝てるチームを全員で作り上げたいと考えております。また、皆様に応援していただけるチーム・人間になれるように一人ひとりが意識を高く持ち、人間力の向上にも努めていきます。

日本一強い東邦、日本一愛される東邦を目標に、努力し続けていきます。応援の程、宜しくお願いいたします。

全国大会を目指して

男子ソフトテニス顧問　若山　大樹、小川　礼

男子ソフトテニス部は現在、19人（２年生11人、１年生８人）で活動しています。

先日行われた愛知県新人体育大会では、団体戦3位という結果を残すことができました。この結果、12月24日に豊橋市総合体育館で行われる愛知県選抜ソフトテニス大会に出場を決めました。現在は、全国選抜大会出場を目指して、日々練習に励んでおります。

男子ソフトテニス部では、目標の一つとして「チームとして全国大会出場」を掲げています。全国大会への足掛かりとなる、愛知県選抜ソフトテニス大会に出場できることは、選手一人ひとりが、この目標を共通意識として持てているということだと感じております。

この大会で全国大会を目指して戦うことはもちろんですが、大会を契機として、チームがより強く目標を意識して練習に励むことができると考えております。また、結果を追求することだけではなく日々応援される選手であるべく学校生活においても模範となるよう励んでおります。

最後となってしまいましたが、今回のこの結果も、保護者の皆様方や関係者の皆様方のお力添えがあってこそのものであり、心から感謝申し上げます。チームとしての成長を心掛け、日々邁進していく所存ですので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

東海秋季ダンスドリル競技大会を終えて

ダンス部顧問　伊藤　惠子

新チームになって初めての大会となる秋季ダンスドリル競技会が11月３日、稲永スポーツセンターで開催されました。今年、女子はLYRICAL部門“僕の心をつくってよ”と､HIPHOP女子編成MEDIUM部門“Car Race”の両部門に出場し、男子はHIPHOP男子編成SMALL部門“Fake Style”でそれぞれチャレンジしました。

いずれも２位でしたが、共に初めて１月６、７日に武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる第９回全国高等学校ダンスドリル冬季大会（Winter Cup 2018）への出場が決まり、部員一同嬉しく思っています。いつも支えて下さり、応援して下さっている方々に心より感謝申し上げます。部員一同、心一つに伝わる演技が出来るよう頑張ってきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

来年度こそは､「写真甲子園」全国大会出場を果たします

写真部顧問　杉浦　見奈子

写真部は現在、男子６人、女子23人（内３年生２人）の合計29人、顧問２人で活動を行っています。主な活動は、学校行事の記録撮影（９回）、公募やコンクールへの出品（12回）、講評会（５回）、学外写真撮影会（４回）、ミーティング（15回程度）を、その他には美術館鑑賞会、写真現像体験、部員によるカメラ講習会も実施しています。

昨年度は､「写真甲子園」東海ブロック審査会の出場を果たしましたが、今年度は、残念ながら初戦敗退となりました。部員は結果にめげることなく、部長を中心に公募やコンクールに積極的に参加しています。作品の講評会では、先輩後輩分け隔てなく、意見交換の場が設けられ、生徒間で切磋琢磨できる環境が整いつつあります。

それらの地道な活動を通して､〈愛知県私学美術展写真の部〉では、最高峰である『私学協会長賞』を受賞し､〈昭和シェル石油／環境・フォトコンテスト「わたしのまちの○と×」〉では、学校団体優良賞を、本校文化祭では、特別賞を見事受賞しました。

次年度の文化祭では、各自の作品発表の他に部員による「名東マップ」を作成し、発表したいと考えています。また、次年度の写真甲子園に向けて2018年１月に学校代表メンバーを選出し、５月の作品提出までに粘り強く作品を仕上げていく予定です。次年度こそは、写真甲子園全国大会を果たせるよう、邁進してまいりますので、応援をお願いします。

「管楽」全国大会出場

吹奏楽部顧問　古野　達也

吹奏楽部（吹奏楽コース）は、現在、３年生６人、２年生９人、１年生17人の合計32人で活動しています。短時間で効率よい練習（平日２時間、土曜半日、日曜休みを基本）を目指し、学業とのバランスを考えた部活運営を心がけています。

吹奏楽コース新体制１年目の今年度は、今まで参加したことのない大会に挑戦しました。その結果、中部日本吹奏楽コンクール本大会（静岡県 アクトシティ浜松大ホール）、日本管楽合奏コンテスト全国大会（東京都 文京シビックホール大ホール）に出演することがで

きました。どちらの大会も響きが豊かな素敵なホールで、伸び伸びと今できる最良の演奏を客席の皆様にお届けできたと思います。部員達にとってこれらの経験は生涯の財産となることでしょう。

この日を迎えるまでに、音楽的なご指導を頂いた楫野克彦先生、常に部員に寄り添い部活運営を支えて頂いた松瀬光先生、子供達を温かく見守り応援してくださる保護者の皆様、そしてなにより、質の高い音楽を追求し、日々練習を重ね成長し続ける部員達に心から感謝致します。

県大会ベスト８への挑戦

女子バスケットボール部顧問　近藤　令奈子

女子バスケットボール部は第70回全国高等学校バスケットボール選手権大会愛知県大会（第５回ALL　AICHI）予選でグループ１位になり県大会出場を果たしました。残念ながら、県大会では１回戦から第４シードの中部第一と対戦し完敗しました。第１Qから主導権を握られ結果的にみるとダブルスコアで敗退しました。

しかし、県大会ベスト４のチームと戦い、全く歯が立たなかったかというとそうでもなく、自分たちのバスケットができていれば戦えるチームであることが分かった試合でもありました。部員たちにとっては、次の新人戦で県大会ベスト８に入るための課題が明確に分かった試合でもあました。県大会に出場したことは部員にとって大きな自信になったと思います。たくさんの関係者の皆さんの応援も大きな力となりました。心から感謝申し上げます。

地元開催のインターハイに向けて

水泳部顧問　山田　琴絵

今年度、水泳部は県大会、東海大会を順調に進み、８月17日から20日に宮城県で開催されたインターハイに９人の選手で参加することが出来ました。結果として目標としていた決勝進出は出来ませんでしたが、大舞台で泳ぐ皆の姿は立派なものでした。特に３年生の活躍は素晴らしく、３年間で本当に強くなったと思います。

来年度のインターハイ競泳は名古屋の日本ガイシアリーナにて行われます。およそ30年ぶりの地元名古屋でのインターハイ。その舞台で活躍するために日々精進していきたいと思います。最後になりましたが、関係者の皆さま、今年度もたくさんのご声援ありがとうございました。さらなる高みを目指して頑張っていきたいと思います。今後も応援よろしくお願い致します。

大盛況で閉幕した卒業制作展 ～未来の芸術家たち展～

美術科教科主任　杉浦　見奈子

11月21日～26日に愛知県美術館８階Ｇ１・Ｇ２ギャラリーで開催した「美術科23期生 卒業制作展・未来の芸術家たち展」は、今年で25回目を迎え、1178人にご来場いただきました。今年度は、美術科23期生36人が、高校生活３年間の集大成として出品し、どの作品も芸術家として引けを取らぬ秀作ぞろいでした。また、昨年度に引き続き、会場内にポートフォリオ展や美術科の歩み、進路実績等のパネル展示も行い、来場者の皆様に美術科の活動をわかりやすく提示しました。

11月23日には、中学生向け美術科説明会とギャラリートークを実施しました。ギャラリートークでは、150人を超える観客を前に、13人の在校生が、自作を熱く語り、好評を得ました。

今年度の新たな試みで、来場者が気に入った出品者に投票する「オーディエンス賞」を設けました。来場者がどの作家に投票するか迷うほど、展覧会をじっくり観覧する姿を多く見受けられました。

「この展覧会を開催できて嬉しい、楽しかった！」という声を多くの在校生から聞き、きっとこれから制作の指標になることと思われます。ご協力、ご観覧頂いた教職員の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様、誠にありがとうございました。

「フレンズ・TOHO」は、みなさんをお待ちしています！

「フレンズ・ＴＯＨＯ」では、様々な催しや交流の場を設けており、会員さんはもちろんですが、会員さんでない方にも、是非、参加していただきたいと思っています。

興味のある方、参加してみたい方は、フレンズ・ＴＯＨＯまでご連絡ください。お待ちしております。

TEL：０５２－７８２－１９５４
フレンズ・TOHO事務局
E-mail：friends@aichi－toho.ac.jp

2017年6月､「フレンズ・ＴＯＨＯ」総会記念講演会で、小高ワーカーズベース代表の和田智行氏のお話をお聞きしました｡「福島は現代日本のフロンティア～困難の中からチャンスを見つける方法～」と題された講演は、困難を乗り越え新たな道を切り拓かれている和田さんの生きざまに感動を覚え、心に温かく残るものでした。お話を聞くことができたことに感謝いたしますし、またの機会にもっとたくさんの人に聞いてもらいたいと、心の底から思っています。

今後も、皆さんの心に残るような、こうした企画を充実させていきたいと考えております。是非ご参加ください。

同窓会広報誌「東邦の和」53号を発刊 ～特集記事が大好評～

高校同窓会　東邦会事務局

同窓会東邦会（東邦商業学校・東邦中学校・東邦高等学校の卒業生にて組織）では、毎年10月に同窓会報「東邦の和」を発刊し、全ての同窓生および在校生や学園関係者にお配りしています。

今回は「東邦の伝統と革新」を特集記事とし、表紙写真は伝統が引き継がれる行事のひとつ“文化祭”の太鼓演舞のひとコマとしました。

さらに共学30周年を記念して女性特集「社会を彩る同窓生（いもうと）たち」を掲載しています。社会で活躍する女性同窓生７人が登場します。

もちろん、現役生のクラブ活動や進学状況も詳しくお知らせするとともに、各学年の同窓会やOB会の様子も掲載しています。

今後とも事務局では、学園関係者の皆様から様々な情報提供をお待ちしております。

邦友会活動

大学短大同窓会　邦友会事務局

邦友会では大学・学生会行事への参加協賛とクラブ活動の支援をおこなっています。大学の式典行事をはじめ、恒例行事となりました名東区民まつりや大学祭への参加援助。大学短大卒業生の子・きょうだい対象の育英奨学金の支援。学園支援団体のフレンズ・TOHOへ協力。昨年度より正式加入した愛知県私立大学同窓会連合会の各事業へ出席するなど。今年度は女子サッカー部のめざましい活躍や、個人では車椅子バスケットボールの田中さんが世界大会に、フィギュアで佐藤さんがインカレ出場を果たし、それぞれに援助。田中さんは愛知県の強化選手に選ばれており、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックがとても楽しみになりました。

また、初めての試みでしたが、同窓生対象のゴルフコンペを開催いたしました。幅広い世代の方に参加していただき、参加者から次回開催を望む声を確認することができましたので、これからも続けていくことができればいいなと期待しています。教職員の皆さんも是非ご参加ください。

処女航海から定期航路開拓へ
～地域連携センター2年度目を終えて

地域連携センター長　舩木　恵一（経営学部 地域ビジネス学科教授）

第２回名東区学生ミーティングで講評する舩木教授

愛知東邦大学Ｓ棟内に地域連携センターが開設されたのは2016年６月です。開設から１年半。これまで大学として、あるいは東邦高校を含む東邦学園として、様々な地域活動を行ってきており、その内容と範囲は年々増大して参りました。

こうした背景から、学内外に再度“地域連携”が本学園のひとつの重要な柱であること。個別取り組みから組織的な取り組みへとレベルアップを図ること。などを目的として、地域連携センターと地域連携活動をとりまとめる地域連携委員会が組織化されました。

開設当初は、学内において様々な意見や疑問が呈され、センターの存在価値において共通の認識形成は困難でした。地域連携の定義とは何か？地域とはどのエリアを指すのか？学生に何を提供するのか？地域社会にどう貢献してゆくのか？などが主要な“問い”でありました。意気込みとは裏腹にまさに前途多難な処女航海でありました。委員会及びセンターではとりあえず、地域と大学を結ぶハブ機能だろうという考えで活動を行って参りました。

地域連携活動とは、地方自治体や地域の企業との連携事業、コミュニティ・カレッジ・プログラム（ATUCC=生涯学習プログラム）、学部のカリキュラム、演習（ゼミ）での取り組み、全学共通科目として取り組むアクティブ・ラーニング＝“東邦プロジェクト”、部活動やサークル活動など多岐にわたっています。

2017年２月に開催された“地域と連携した授業の発表会”では、延べ130人を超える学生が参加し、主要な17プロジェクトの取り組みの報告会が行われました。この発表会は年々参加する学生、報告されるプロジェクトともに増加傾向にあり、本学における“地域連携”活動が拡大・発展していることを示しています。

2017年度に入り、新しい取り組みも続々誕生しました。名古屋グランパスとの連携深化や、様々な地域活性化活動・ボランティア活動などが行われております。今後は、こうした実績をもとに地域社会・企業との関係をより深め、学生の成長機会として、“地域の様々な団体・企業を知る”“きらきらした大人との出会い”“ボランティアやプロジェクト参画を通じての人間力の育成”を図るべく、各学部のカリキュラムとの連携強化、学生の自主的活動の促進を行うため、定番化を狙える地連携域活動の強化、センターの情報発信力の強化を目指したいと考えております。

船の航海で例えるならば“定期航路の開拓”“新規航海の挑戦”となり、地域連携センターは情報のターミナル（中継点）を目指すことになります。今後も活動のご理解とご支援をよろしくお願いします。

愛知東邦大学の地域連携活動（2017年４月～11月）

4月

20日　ボランティアサークル「COCORO」が大学周辺通学路の安全パトロールを兼ねた清掃活動に取り組む「防犯ボランティア」で第６回パトロールを実施。

22日　吹奏楽団が名古屋市緑区の名鉄有松駅前広場で開催された第12回「有松村 藍流祭」のイベントに出演。▽愛知東邦大学コミュニティカレッジ（ATUCC）が日進グラウンドで「親子かけっこ教室」を開催。人間健康学部の木野村嘉則助教が小学４～６年生親子13人を指導。

5月

9日　地域連携センターがGWの海外旅行などで使い残した外国通貨をユニセフ（国際連合児童基金）を通じて世界の子どもたちへの支援に有効活用しようと外国コイン募金開始。

14日　東邦高校と愛知東邦大学を会場に第22回「名東の日・区民まつり」で「平和の丘春まつり」を開催。

19日　教育学部１年生たちが愛知東邦大学と名東文化小劇場とのパートナーシップ協定に基づくは夏季ワークショップの企画運営のため第１回打ち合わせ会議に参加。

27日　吹奏楽団が東邦高校吹奏楽部とともに中部国際空港で開催されたスカイ・マーチング・フェスティバルに参加。パレードとフロア演奏。

6月

1日　「東邦プロジェクトB」の学生５人が「清掃・防犯パトロール活動」をプレ体験。

4日　豊田スタジアムで開催された名古屋グランパスファン感謝デーに学生21人がボランティアとして参加し、運営をサポート。

17日　連携協力協定を結んでいる日進市の子どもたち20人に、人間健康学部の小島正憲准教授が体育館で「楽しい体操教室！」を開催。

7月

8日　吹奏楽団が藤田保健衛生大学病院で開催された音楽療法イベント「いこいの広場コンサート」に出演。

19日　地域連携センターが使用済みインクカートリッジを国際協力NGOセンター（JANIC）が実施している「NGOサポート募金」に役立てる回収活動を開始。

22日　大勝志津穂准教授のゼミ生たちが日進市の「提案型大学連携協同事業」として少年野球教室を日進グラウンドで開催。▽平和が丘学区夏まつりに吹奏楽団や学生会の学生たちが参加。

23日　ラーニングハウスの寮生たちが地元くまさん公園の夏祭りに参加。

30日　大勝志津穂准教授のゼミ生たちが運営する第５回「トーくん・ホーちゃん杯争奪ドッジボール大会」を体育館で開催。小学生330人が参加。

8月

6日　名東区主催の「子どもミーティング～みんなでつくろう夢のまち～」が区役所講堂で開催され教育学部の１、２年生22人がワークショップのファシリテーターとして参加。

7日　教育学部１年生22人が名東文化小劇場での「あつまれKIDSたいけんDAY」を企画運営。

11日　吹奏楽団が長野県売木村の文化交流センターで８回目の「ミニコンサート」を開催。

21日　女子サッカー人口のすそ野を広げようと名古屋グランパスとの連携事業である「第４回ガールズサッカーフェスティバル」を日進グラウンドで開催。小学生約90人が参加。

26日　東邦高校での「納涼音楽祭」で吹奏楽団が東邦高校吹奏楽部と演奏。

9月

1日　「東邦STEP」で公務員をめざす学生５人が平和が丘消防団に入団し、Ｌ棟LCホールで辞令交付式。

18日　吹奏楽団が名東区の香流小学校で「敬老の日」演奏会。

24日　教育連携協定を結ぶ名古屋グランパスを応援する「TOHO観戦DAY」を実施。パロマ瑞穂スタジアムでの東京ヴェルディ戦にオール東邦の約100人が参加。

27日　平和が丘消防団入団の学生たちが消防団詰め所で初訓練。中京テレビ「キャッチ！」が取材。

10月

3日　ボランティアサークル「COCORO」が12回目の「防犯ボランティア」活動。

6日　名古屋グランパスの応援戦略をテーマにした「東邦プロジェクト」Ａ、Ｃが合同授業。名古屋グランパス幹部が名古屋グランパスの現状と課題について講義。

15日　多文化共生を学ぶ「東邦プロジェクトＤ」の学生８人が栄のオアシス21で開催された「ワールド・コラボ・フェスタ2017」にブース出展。

11月

7日　「ボランティアサークルCOCORO」が第14回ボランティア活動で、初の「夜間」防犯パトロールを実施。

15日　「東邦プロジェクトＡ」の経営学部１年生４人がホームレス支援活動に役立てようと、不用品（衣類や日常品）提供を呼びかけ、地域連携センターに回収BOX設置。

16日　第２回名東区学生ミーティングをLCホールで開催。「東邦プロジェクト」の学生たちの運営で東邦高校生徒５人、愛知淑徳大学生２人も含め約60人が参加。

30日　地域創造研究所定例研究会で、「地域プロモーターとしての学生寮」のテーマで学生寮「ラーニングハウス」の阿比留大吉さんが講演。

「いこいの広場コンサート」に出演した吹奏楽団（７月８日）

大勝ゼミが開いた日進グラウンドでの少年野球教室（７月22日）

日進グラウンドでの第４回ガールズサッカーフェスティバル（８月21日）

平和が丘消防団で訓練する学生たち（９月27日）

名古屋グランパスを応援する「TOHO観戦DAY」に参加した学生たち（９月24日）

「東邦プロジェクト」の学生たちが運営した第２回名東区学生ミーティング（11月16日）

決勝戦前夜、名古屋から大阪入りし、宿舎で訓示する下出義雄校長

1939年　セピア色の球児たち

眠っていた東邦商業の甲子園優勝アルバム

東邦商業学校が２回目の甲子園優勝を飾った1939（昭和14）年春の第16回全国選抜中等学校野球大会の「優勝アルバム」が残されていました。新聞部部長でもあった三宅貫一教諭（1992年に83歳で死去）が自分で撮影した写真をまとめたものです。

甲子園球場での熱戦の様子、宿舎近くで旅館着姿でキャッチボールを楽しむ部員たち。決勝戦前夜、名古屋から到着した下出義雄校長が、宿舎で部員たちに訓示している写真もあります。優勝後、大会を主催した大阪毎日新聞社に出向いてのあいさつ、凱旋した部員たちを名古屋駅で出迎える歓喜の市民、そして下出民義校主。母校での優勝報告会。カメラは様々な角度から部員たちを追いかけていました。

アルバムは第16回大会に右翼手、投手で５番打者として活躍した大府市の久野欽平さん（1990年に71歳で死去）宅に眠っていました。長男で元大府市職員の雅史さん（70）が父親の思い出を語りながらアルバムを見せてくれました。

15ページ分のアルバムには105枚の写真がのり付けされていました。撮影時から79年の歳月を経たモノクロ写真は、現像液の寿命とともに画像が消え入りそうな写真もあれば、セピア色に変色しかけている写真もありました。写真の説明書きはありませんが、同じ写真が、毎日新聞社から1978年に発刊された『別冊1億人の昭和史・センバツ野球50年』で紹介され、三宅教諭のあいさつ文も掲載されていました。

詳しくは学校法人東邦学園ホームページで連載中の「語り継ぐ東邦学園史」の第19回「セピア色の優勝アルバム」をご覧ください。

語り継ぐ東邦学園史　検索

http://www.toho-gakuen.jp/history_topics

キャッチボールを楽しむ部員たち。投手左に野球少年の姿も

５試合で59点得点、73安打、チーム打率３割５分８厘の驚異的な攻撃力で優勝に輝いた東邦商業。岐阜商業との決勝戦スコアは７－２でした。

甲子園球場入りする東邦商業ナインたち

観戦する下出義雄校長

満員のアルプススタンドの声援を受けての熱戦

名古屋駅で選手たちを出迎える下出民義校主

優勝旗や優勝杯を手に記念撮影

赤秋校舎で開かれた優勝報告会

大阪毎日新聞社にあいさつへ。デパートには「大阪物産館」の垂れ幕も

伊勢神宮への優勝奉告で乗り込んだ神都バスは「電気自動車」と書かれています

宿舎窓辺でハーモニカを吹く部員

アルバムを保存していた久野欽平選手（久野選手のアルバムから）

愛知東邦大学 コミュニティカレッジ ～2018年度前期講座～

地域に開かれたキャンパスとして、本学の特色を活かした講座を開講します。
地域の皆様との知的交流を通して、「学びのコミュニティ」を創出します。

カフェテリアで人工知能について学ぼう
◆講　師：舩木恵一（経営学部教授）

防災カフェ in 愛知東邦大学
◆講　師：藤沢真理子（人間健康学部教授）

認知症予防のための運動教室
～簡単な多重課題運動を気軽に体験してみよう～
◆講　師：中野匡隆（人間健康学部助教）

マーチングをやってみよう！
◆講　師：白谷峰人（愛知東邦大学吹奏楽団監督）

英語でヨガ（初心者）
◆講　師：後藤麻友（ヨガインストラクター）

シニア検定初級
◆講　師：愛知信用金庫、㈱グローリア21

教育学部は、
名東区子育て支援ネットワーク連絡会
と連携した活動を実施中！

英文多読体験講座
◆講　師：竹越美奈子（経営学部准教授）

楽しみながら成長を支えよう！
～ポジティブ心理学を活用する子育て～
◆講　師：高柳伸哉（人間健康学部助教）

女性のための自分でできる
ボディデザイン講座と少しサポート
◆講　師：中野匡隆（人間健康学部助教）

マーチング大好き！
◆講　師：白谷峰人（愛知東邦大学吹奏楽団監督）

認知症サポーター養成講座
◆講　師：愛知信用金庫
名東区北部いきいき支援センター

観光事業と電力供給について（仮）
◆講　師：JTBコミュニケーションデザイン
HRソリューション事業部 ソーシャルビジネス局

講座の詳細、お申し込みは３月５日（月）以降、
本学の公式Webページでご確認ください。

「愛知東邦大学同窓生入試」のお知らせ

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校卒業生の子または愛知東邦大学在学生・卒業生のきょうだいに対して入試を実施します。

特典としては愛知東邦大学の入学金が半額になります。

一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

【Ⅲ期　出願期間】 2018年１月17日（水）～２月14日（水）

詳しくは**愛知東邦大学　入試広報課**にお問い合わせください。 **TEL：052−782−1600**

地域創造研究所設立15周年記念シンポジウム

日　時：2018年３月３日（土）　14時00分～16時30分
場　所：名古屋ガーデンパレス　２階　鼓の間（入場無料）
主　催：愛知東邦大学地域創造研究所
後　援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋市名東区、日進市
テーマ：アクティブ・ラーニングの視点を問う
－小・中・高・大学で『主体的・対話的で深い学び』を育むために－
【申込み期間】 2018年１月９日（火）～２月23日（金）
【お問い合わせ】 愛知東邦大学　地域創造研究所　TEL：052−782−1243